

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	・前年度はコロナ禍による学習スタイルの変更を余儀なくされたが、多くの項目について目標を達成できた。しかし、本校の課題と言える児童の実態の2極化を是正していく必要がある。学力向上においては、学力向上コーディネーターや研究主任を中心に、本校の課題を的確に見極め、全職員で各活動や振り返り活動についての取り組みができた。心の教育においては、生徒指導主任や教育相談担当、特別支援担当を中心として、支援を要する児童について対応の仕方を学ぶことができ、各学級での対応に生かすことができた。健康・体づくりにおいては、コロナ禍における学習スタイルの変更の影響が大きく、運動習慣の定着とまではいかなかったが、各種行事を通して運動に親しむ機会を増やした。業務改善、働き方改革については、さらなる重点的な取り組みや職員の意識改革も必要である。開かれた学校づくりでは、保護者や地域への啓発活動ができてきている。
2	学校教育目標	「いい顔 いい声 いい動き」の明倫っ子の育成
3	本年度の重点目標	【知】 進んで学ぶ子どもの育成 【徳】 思いやりのある子どもの育成 【体】 粘り強くやり抜く子どもの育成

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員を80%以上にする。	・教職員間でマイプランについて共有するとともに、授業研究会やスキルシェアリング研修等で取組の促進を図る。							小川(学力向上)
	○説明力、対話力、学習意欲の向上に向けた実践の充実	○自分の考えを説明することができる児童を80%以上にする。	・自分の考えを広げたり深めたりできるような話し合う活動を設定する。							小川(学力向上)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生活アンケートで肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・道徳教育の充実をはかり、「ふれあい道徳」を授業参観日に行う。 ・生活アンケートを6月、10月に実施する。							小野原(心育)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○心のアンケートで肯定的な回答をした児童を90%以上にする。	・QUTテストを実施し、効果的に活用する。 ・学校全体で対応できる体制をつくる。 ・心のアンケートを定期的実施する。							小野原(心育)
	○仲間とのつながりを深める特別活動の充実	○仲間とつながり、協力できる児童を80%以上にする。	・行事において、児童が互いに協力しながら活動し、仲間とのつながりを深められる場を設定する。 ・たてわり活動による異学年交流促進を図る。 ・各学級で、あたたかい居場所づくりや友だちとのかかわり方について考えさせる取組の工夫を行う。							前田(ときめき)
	◎夢や希望を持ち、その実現に向けて努力しようとするための教育活動	◎自分の夢や目標に向かって努力している児童を80%以上にする。	・キャリアパスポートを活用し、目標や見通しをもって活動に取り組みせたり、活動を通して伸びた力を振り返らせたりする。 ・地域の人・物・事を活用した体験活動を充実させる。							
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上にする。	・運動に親しむことで体力向上が図れるような魅力的な体育の授業実践をめざす。 ・運動に親しみやすいような環境・道具の設定を行う。 ・食育や保健体育、特活等の学習を通して生活習慣を整えることの大切さの理解と啓発を図る。 ・生活習慣に関するアンケートを実施する。							樋口(体づくり)
	●望ましい生活習慣の形成	○「健康には生活習慣を整えることが大切である」と考える児童70%以上にする。	・定時退勤日(毎週金曜日18時)を設定し、時間外勤務の削減を図る。 ・年次有給休暇を計画的に昨年度実績以上となるように呼び掛ける。							教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日18時)を設定し、時間外勤務の削減を図る。 ・年次有給休暇を計画的に昨年度実績以上となるように呼び掛ける。							教頭
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別な支援を要する児童への開発的生徒指導の充実	○支援を要する児童の実態把握の場の設定と対応の仕方の検討	○支援を要する児童への対応の仕方、支援を要する児童を含む集団への働きかけを学び、生徒指導に生かすことのできる教員の割合を80%にする。	・職員研修の充実とSC・SSWとの連携を図る。 ・児童の実態把握と適切な対応(保護者面談、支援会議、ケース会議の開催)を行う。							
○開かれた学校づくり	○外部評価の結果の公表と改善	○地域人材を活用した教育活動を各学年、年間1回は実施する。	・学校運営協議会での意見をもとに学校改善を行う。 ・学校便りを配布し、情報発信に努める。 ・地域人材を活用した教育活動を推進する。							教頭・有森(学校運営協議会)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5	総合評価・ 次年度への展望	
---	------------------	--